

音 楽 I

1. 学習の到達目標

- (1) 自己の個性的な創造性が自覚でき、それを積極的に表現する力を身につける。
- (2) 読譜力の伸長を図り、音楽理論を学習し、歌唱・器楽演奏において高校生らしい芸術性のある表現を目指す。
- (3) 音楽史を学習し、芸術性の高い音楽を愛好する心を育くむ。

2. 使用教科書 高校音楽 I Music View (教育出版)

3. 指導計画

学 期	学習内容とねらい	学習事項	
前期	4月	【歌唱（斉唱）】 ・大館鳳鳴高校校歌・応援歌 ・地元に関連のある音楽作品 （愛校心の育成、地元の良さの認識） ・教科書にある芸術歌曲 （芸術観の育成、歌唱の技術向上）	◆実技学習 表現力豊かな発声法の習得。 理論学習と絡めての、より正確な音程感覚の習得。
	}	【理論（楽典）】 ・音名、音程などの基礎知識 ・音程 ・調性 （実技に応用できる基礎的知識の定着）	◆理論学習 楽典の基礎知識を習得。主に歌唱に生かせる知識。
	9月	【音楽史・音楽鑑賞】 ・中世・ルネサンス時代の音楽史 （西洋音楽へのより強い興味・関心） ・バロック・古典派の音楽史 （高いレベルの芸術観を考察。音楽の形式についての知識習得。鑑賞能力の向上）	◆歴史学習 中世から古典派の時代までの音楽史を学習。 ◆音楽鑑賞 音楽史の学習に関連した教材を鑑賞。
後期	10月	【歌唱（合唱）】 ・教科書または教科書外の合唱曲 （和声感覚の向上、歌唱の技術向上）	◆実技学習 表現力豊かな発声法の習得。 理論学習と絡めての、より正確な和声感覚の習得。
	}	【器楽（リコーダー）】 ・教科書または教科書外の器楽曲 （リコーダー演奏技術の向上、形式観、曲の性格についての考察）	◆実技学習 表現力豊かな演奏法の習得。 前期の音楽史学習と絡めての、形式観、性格的舞曲の考察への取り組み。
	}	【理論（楽典）】 ・和声 （実技に応用できる基礎的知識の定着）	◆理論学習 楽典における基礎的な和声の知識を習得。主に合唱や器楽演奏に生かせる知識の習得。
	3月	【音楽史・音楽鑑賞】 ・ロマン派・近代・現代の音楽史 （西洋音楽へのより強い興味・関心。作曲家の創造スタイルへの興味関心、および知識の習得）	◆歴史学習 中世から古典派の時代までの音楽史を学習。 ◆音楽鑑賞 音楽史の学習に関連した教材を鑑賞。

4. 評価基準と方法

【評価基準】

- 実技学習においても、鑑賞学習においても集中力と意欲をもって取り組むことができる。
- 自己の個性的な感受と積極性をもって表現ができる。
- 基礎的な知識や技術を表現に応用ができる。
- 集中力と高い芸術観をもって鑑賞に臨み、その演奏から作曲家・演奏者の思いを感じ取ることができる。

【評価方法】

学習活動への積極的参加、実技および鑑賞の自己評価表、授業時間内での実技テスト、授業時間内での課題プリント

